

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890900109		
法人名	社会福祉法人 兼誠福祉会		
事業所名	グループホームメヌエット		
所在地	兵庫県西宮市浜脇町4-33		
自己評価作成日	平成22年5月28日	評価結果市町村受理日	平成22年8月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ナルク兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2-27-19		
訪問調査日	平成22年6月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・生活者様本来の生活を継続や充実させるために、ご本人はもとより、ご家族様と職員間の連携に特に力を入れており、ケアにもおおいに反映できている。</p>
---

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームメヌエットは、同一法人が経営する特別養護老人ホームメヌエット東隣の5階部分にある。施設の周辺は酒蔵が多くあり、西宮えびす神社にも近く、都会にあると思えない静かで落ち着いた環境下に位置している。近代的な建物で利用者の一日の生活面にもゆとりを感じさせる。5階に位置している特性をいかして、施設と連なる屋上庭園は、利用者にとっては、花造り・野菜の栽培・散歩・日向ぼっこなど、格好の憩いの場となっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	私たちは、生活者様がゆとりのある時間の中で「我が家」と感じていただき、楽しく過ごしていただける環境づくりをサポートいたします。の理念を管理者・職員共に共有し、実践している。	ユニットごとの理念を5階エレベーター前に掲示しているが、大差はない。理念は統一して、ユニットによる違いは目標等で表現することを提案したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に根付いた施設を目指し、毎日の散歩、買い物を通じて地域住民の方と挨拶や会話等の交流機会を増やし、日常的に交流を行っている。地域のイベントにも参加している。	特養施設等との併設で、グループホームが5階にあるため、地域の方の訪問は少ないが、利用者の外出の際の交流やイベントへの参加は活発である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々、来られる入居相談者に対し、事業所として在宅介護相談内容も含め、介護者ストレスケアに取り組んでいる。「在宅介護相談」の窓口設置に向け運営推進会議をいかに現在検討中である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を活かし認知症介護知識をいかした在宅介護者向け認知症相談窓口のひとつとして「グループホーム」という新しい窓口を増やすため検討中である。その他の意見もホーム内のサービス改善や向上に活かすべく事業所内会議でも再検討している。	行政の指導もあり、メンバーに他施設のケアマネも加えて、2ヶ月に1回の定期開催が軌道に乗りつつある。家族代表の複数出席や取り上げる議題の幅を拡大するなど、工夫をして運営推進会議に求められた趣旨を生かすための努力を期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常より、介護保険課、福祉課の担当職員と連絡をとり、事業所運営、利用者の方が安定しておくれるよう協力体制を築いている。	事業所開設以来、管理者が西宮市の担当課と連携を密にして、事毎にアドバイスを得て、事業所運営に生かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が「身体拘束ゼロへの手引き」をマニュアルとし、精神的・物理的・薬物による拘束をしないように日々取り組んでいる。玄関の施錠については、特別養護老人ホーム併設型であるため、解除が安易ではないが、施設として課題に挙げている。	特養等との併設事業所のため、施錠等止むを得ない事情は認められるが、基本的に身体拘束をしないケアの重要性を十分認識して対処されたい。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に対し、管理者・ケアマネが定期的に面談をもち、虐待の根源である、ケアをはじめ職員の生活も含めて話し合い、ストレスマネジメントを行っている。「無駄をはぶき職員が楽しい時間を増やす」を目標に職場環境の改善にも日々取り組んでいる。	利用者の生活面及び職員相互のおおらかな私生活等を含めて、施設内では家族的な雰囲気を作り、お互いの人権を尊重している。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現段階での活用事例が少ないため、職員が直接制度を知る機会は少ないが、制度活用に向け「社協のしおり」にて制度を知る機会を持っている。	現在まで活用事例は無い。制度については、十分に研究して、将来に備えられたい。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時はもとより、改訂時は個別に、又は説明会の機会をもうけ、契約者が納得して頂けるよう努力している。	契約時・解約時はもとより、改訂時にも、利用者・家族等に十分説明して、理解納得を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所入口に意見箱の設置を行っている、家族様との情報交換の機会としては、担当ユニット担当職員からの直接連絡を基本としており、家族・利用者・職員との信頼関係が築ける様にしている。	利用者や家族からの運営に関する意見等は、現状では多くない。	今回の第三者評価を通じて、管理者と家族との意思疎通が十分でない事がわかりました。事業所として、家族の率直な声を聞くための工夫(例えば簡単なアンケート・行事後の反省会の実施など)を考えられたい。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は定例のユニット会議より職員の意見を把握し、毎月の施設全体会議の議題として運営に反映できるようにしている。	職員は、日常的に利用者の思い等を把握。それをもとにユニット会議・施設全体会議で取り上げるなど、運営に反映できるようにしている。	職員の定着率の高さと、運営に関する職員意見の反映度合いが比例しているかも知れません。今後とも、理事者側と職員側との間に立つ、管理者の頑張りに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・就業規則の見直し ・フレックスタイムの勤務可 ・人事効果(情意評価レベル)の検討中		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・ヘルパー資格支援制度(福祉法人として) ・内外研修の予算化 ・教育委員会発信により、内外研修参加制度 ・メンタルヘルス支援制度のあり方を思案中		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・他施設の見学及び研修による相互理解を深めている ・他施設により見学の受け入れ		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者・ケアマネ・介護職員にて事前面談を持ち、現在の本人の環境・要望・希望をアセスメントし、それをもとに、ケアプランを作成しケアにのぞんでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者・ケアマネ・介護職員にて事前面談を持ち、現在の家族の環境・要望・希望をアセスメントし、それをもとに、ケアプランを作成しケアにのぞんでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の段階で、事前調査の時点で、本人・家族に危険や、過度のストレスが見られる場合は、併設特養のショートステイ・デイサービスの利用も視野に入れ、最善の状態まで入居まで過ごして頂けるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の行動指針として「共に生活」とあり常に意識を持ってケアにあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員が直接家族と連絡を取り合う事で、互いに信頼関係を構築し、共に本人を支える様支援している。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が入居までに大切にされてこられた関係が途切れないように、家族の協力を得ながら、手紙・電話・会う機会をもてるように努力している。	利用者それぞれの、長い人生経験からの馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族の協力も得て支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれ人間関係を日々の申し送りにて職員が把握し、介入すべき時と、そうでない場合を見きわめ、人間関係が円滑に行く様に介入している。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も関係を継続し、必要に応じて契約者のご家族様やお知り合いに対し、同施設の他サービスの提供を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1対1で職員と本人がお話する時間を使い、本人のニーズや不満をヒヤリングしケア内容とし実現や不満解消につなげられるように努めている。	各ユニットとも、利用者と介護スタッフのコミュニケーションに力をいれ、一人ひとりの思い等を十分理解して、家族的な雰囲気を作成すべく努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	常に本人や家族様よりのヒアリングにて本人の背景情報をアセスメントし、ケアに反映できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リハビリを通しての現状能力の維持、向上を常に考えて現状の把握に努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に見直しを行い、様子や状態の変化等について評価を行い、終了又は継続の必要性、新規課題等を関係職員に意見を求め、生活レベルの向上が図れる様にカンファレンスを行い計画書を作成している	各人の介護計画は、本人・家族の理解を得て関係者で話し合って確立。定期的な見直しの他、緊急時の見直しもケースバイケースで対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録への評価項目にて確認し、担当職員及びユニット職員とカンファレンスを適宜行い、継続性を図り、変化を見極め見直し時に反映している為、些細な事でも実践した内容と本人の様子を記録している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスを基本サービスとし、本人とご家族のその時の状況に応じて話し合い、対応している。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーへの買い物、公園への散歩、西宮神社へのお参り等、豊富な地域資源を最大限利用しながら本人の生活の支援をしている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力往診医が主治医の方は定期往診の他、必要時に適切な医療が提供できるように連携をしている。指定のかかりつけ医がある方はご家族様の協力の下、医療機関と連携をとって医療の提供に努めている。	指定のかかりつけ医のある利用者は家族の協力を得ての受診、他の利用者は連携医療機関の定期的往診など、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護職員を職員としては配置していないが、併設特養の看護師と協力し、職員がアドバイスや、緊急時の対応を速やかに対応できるように連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、急な退院も想定し、職員が随時本人の状況が把握出来るように、こまめに管理者、ケアマネ、介護職員が訪院し現状把握に努めている。その際に、本人、家族、医療相談員との連携も行う。		
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状況より今後起こりうるであろう状態について早い段階より家族参加型のケアカンファレンスにて話し合いを持ち、事業所・家族様それぞれの役割について理解する様に努めている。	近隣の連携協力医療機関と常に連携し、家族・親族と共に十分な対応を取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が「普通救急救命講習」を修了しており、急変等に適切な判断と行動が出来るようにしている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、詰所に常に経路図を掲示し、危難経路の把握とシュミレーションが出来るようにしている。地域協力については、運営推進会議で検討中である。	非常時の避難経路図を詰め所に掲示して、昼・夜間の災害対応に備えている。地域との協力体制は併設施設を含めて、全体で取り組んでいる。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特にケアの質のきほんである「接遇」には力を入れており、職員一人一人が常に意識して本人の尊厳が守られるようにしている。	管理者以下職員全員が、利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう、言葉かけや対応に注意して取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も施設の集団行動でなく、自己決定出来る選択肢のある提案やお誘いを職員は心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間帯や契約者様本来の生活に出来るだけ近づいて安心して生活して頂けるように、勤務時間の変更等を行い支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により、本人の馴染みの美容室の利用や、化粧品の購入等、常に本人が尊厳を持って生活できるように支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの方の嗜好調査を行い、個人で購入し提供している。食事量が少ない方には、本人が食べたい物をお聞きし提供している。	利用者にとって、食事が日常の生活の上で最も楽しみなものであるとの自覚の上に立って、好き嫌いの激しい人・食事量の少ない人には、可能な限りの配慮をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量には記録用紙を作成し、健康のパロメーターとして常に管理して、その方の合った食事、水分摂取方法を考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔保持が不可能な方に対しては、職員が介入させて頂き、訪問歯科往診と連携して健康な口腔内維持に努めている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護用品の使用は極力控えて、排泄パターンの把握による、排泄誘導、声かけの工夫で失敗を防止している。	利用者個々人の排泄パターンを把握して、トイレでの排泄や排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方に対しては、ヤクルト・こんにやくゼリー・ヨーグルト・漢方茶等、本人の体に合った食品を探し、便秘薬に頼らない排便を常に目指している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の生活リズムによっては曜日指定となっているが、夜間入浴等、安全を配慮しながら、出来るだけその方が入りたい時に入浴を楽しめるように常に努力している。	入浴嫌いな人には、夜間入浴も含めて本人の希望に添えるように努め、週2回以上の入浴を実施している。又、シャンプー等は個人の好みのものを購入してもらい、生活に変化と潤いを確保している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も本人の状況に合わせて、休んで頂けようように声かけを行い、夜間は本人の休まれる時間に合わせて声かけしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期往診に職員も立ち合い、薬についての質問や、提案等が出来るようにし、各契約者様の内服薬の把握を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの方の生活歴や趣味をいかして、余暇時間の楽しみの提供や役割に活かしている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人よりの希望や、良く発言される場所等への旅行や買い物、帰省等に家族様の協力のもと職員も同行し支援している。	日常的な外出は、近場の安全な散歩コース・近隣のスーパーでの買い物など、戸外に出かける支援に努めている。又、出身地の相生ペーロン祭り・京都への墓参り・近くのプールでの水泳など、本人の希望には可能な限り、沿うよう努めている。	



自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理される方はご自身で金銭管理をして頂いており、自己管理が困難な方は事業所が「個人預かり金」として管理し、本人に必要な物を本人と一緒に購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話の希望や、家族との手紙のやりとりが出来るように手紙の購入の付き添いや代筆等の支援をしている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約者にとって安心して安全かつ快適に過ごして頂けるように季節感が出るように工夫している。	利用者のもっとも近い地域が、グループホームの共用空間である。そのために共用空間は、生活感や季節感が感じられるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	契約者の方はリビングと居室(個室)をうまく生活の中で使い分けられるように職員も本人の状況に合わせて声かけを行っている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ自宅の本人のお部屋にある馴染みの家具を持ち込んで頂けるように家族様に協力して頂き、その後施設での思い出の品や写真を飾り、居心地良く過ごせる工夫をしている。	利用者にとっては、グループホームの居室が、文字どりの我が家である。利用者及び家族が相談して、使い慣れた家具などが持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の身体能力、認知能力に合わせて生活がいとなめるように工夫し、残存能力の維持・向上が出来るようにしている。		

## 基本情報

事業所番号	2890900109
法人名	社会福祉法人 兼誠福祉会
事業所名	グループホームメヌエット
所在地	西宮市浜脇町4-33 電話0798-38-2218


【情報提供票より】平成22年5月28日事業所記入

### (1)組織概要

開設年月日	平成20年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤12人	非常勤3人

### (2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	5階建ての5階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	100,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	600,000円	有りの場合 償却の有無	3年	
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4)利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名	
要介護1	10 名	要介護2	2 名			
要介護3	5 名	要介護4	1 名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	83.3 歳	最低	65 歳	最高	98 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	・医療法人財団 谷向病院 ・医療法人社団 回生病院
---------	---------------------------